

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	16220
課題名	下肢重症虚血肢を合併した透析、及び非透析患者における足部動脈バイパスの臨床成績の検討
研究期間	西暦 2017年 5月1日（または倫理委員会承認日） ～ 2017年9月30日
利用する情報、検体	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：年齢、性別、併存疾患、内服薬、診断名、検査結果、画像診断結果、手術所見、患者足部写真など） <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他（
	※以下の期間に収集した情報が対象となります 西暦 2000年1月1日 ～ 2013年12月31日
研究の意義、目的	<p>脳疾患や心臓疾患などの合併が多い透析患者様が、下肢閉塞性動脈硬化症により足部に潰瘍や壊死が生じた場合、原因となる虚血を改善するために下肢動脈バイパス術やカテーテルによる血行再建術が必要です。透析患者様は非透析患者様と比べて、上記に挙げたように脳や心臓疾患により全身状態が悪い可能性が高く、外科手術であるバイパス術を選択した際に、手術の影響で身体の状態が悪化する場や、思うように手術の成果が得られない場合があります。まず生存率や救肢率（足を助けられた割合）、バイパス血管の開存率などの術後成績を透析患者様と非透析患者様の2群で比較検討し、さらにどのような術前の併存疾患が術後成績に影響しているのかを検索します。</p> <p>これらの結果は、どのような状態の患者様がバイパスを受けるべきか、身体に負担の少ないカテーテル治療を受けるべきか、または初めから切断を選択すべきなのかの良い参考となり、今後実際に治療を受ける患者様の利益となります。</p>
研究の方法	<p>実際に過去に下肢閉塞性動脈硬化症により足部に傷や安静にしても痛みが生じ、足部にバイパス術を受けられた患者様を対象にした研究です。旭川医科大学病院の診療記録から、必要な情報を獲得させて頂き研究解析する予定です。</p>
その他	特にありません。
個人情報について	<p>利用する情報は、お名前や住所など、個人が特定できる情報は削除して取り扱いますので、個人情報が外部に漏えいすることはありません。研究成果発表（学会発表、学術論文への投稿）の際にも、個人が特定できる情報は利用しません。</p>
問い合わせ等の窓口	<p>所属：旭川医科大学外科学講座血管外科 氏名：菊地信介 電話番号：0166-66-2494</p>